

子ども部会で出た始良市の課題

学校関連

R1.12.17 子ども部会

A 養護学校

- ・来春 300 人を超える生徒数。増築するが、環境的に厳しい。学習環境の整備が必要。
- ・スクールバスの増便が必要。
- ・始良からの通学は、距離・時間の問題（最長 100 分。途中でトイレ休憩も入る）（2）
- ・分校や地域教室があるといい（2）

B 養護学校

- ・今年 7 人入学。今後続く。少人数のため、他者との関わりは薄い状況。
- ・登下校などの問題（送迎）（2）
- ・巡回相談では、小学校 1 年生になり集団になじめないなどの相談が多い。
- ・中学生の不登校の相談など受けるが、その後の対応がどうなっているかは不明。
- ・高学年で問題が続いている例もある。
- ・通常級と支援級の連携

- ・近くに養護学校がないため、問題を抱えながら地域の学校に通っている子がいる。
- ・親の希望に学級の対応が添えないことがあり、話し合いを持って対応。
- ・学校現場で支援体制まちまち（個別で相談が必要）
 - 〔 特別支援学級数 年々増加。
 - 〔 特別支援学級在籍者数 年々増加 + 通常学級で支援を要する生徒 増加
- ↓
- ・特別支援教育支援員の増加
- ・園や療育機関等と連携した早期（年中）からの就学相談
- ・特別支援学級担任の専門性の向上
- ・臨床心理士、公認心理師の配置（不登校県平均の約 2 倍→その背景に心理面）
- ・医療的ケア児に対応するための看護師の配置

療育など事業所関連

- ・職員の資質の向上（２）
- ・送迎の希望がある（親の関りが薄くなる）
- ・療育から保育所等への移行支援の確立（母が安心して移行できるように）（２）
- ・いろいろな機関との連携が必要（３）
- ・子に応じた療育プログラムの作成
- ・保育所等訪問支援事業の目的・役割について周知不足
- ・保育所等訪問支援事業を実施する訪問支援員の不足
- ・療育等サービス利用者数が年々増加。
- ・必要な子どもが療育等サービスを受けられない現状もある。
- ・中学生・高校生が療育等のサポートを受けられる施設が少ない。

医療機関関連

- ・病院でリハビリが受けられる施設が少ない。

母親・保護者関連

- ・家庭環境の問題、母親・保護者支援（５）
- ・ピアサポートの集まりに参加できない人がいる。

行政関連

- ・障害児通所支援事業予算 来年度は５億円を超えるかもしれない！？ 年々増加。
- ・災害時の対応について（個別例について関係機関で協議）
- ・こども総合療育センターのみが対応で、地域の他機関とつながっていないケースがある。
- ・検査機関も含めて相談しやすい場
- ・母子健診でフォローが必要な人 ３４％（全体）。発達相談が昨年度より増えている。
- ・３歳半健診後の困り感への対応
- ・連携しながら教育委員会へつなげる役割
- ・いろいろな制度改正への対応